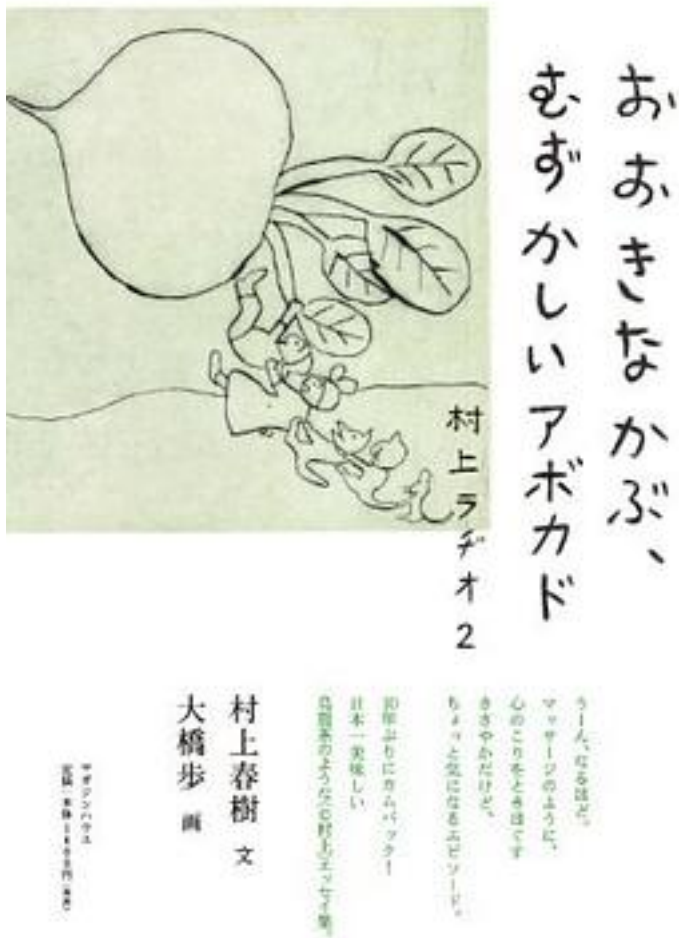


おおきなかぶ、むずかしいアボカド 村上ラヂオ2



[おおきなかぶ、むずかしいアボカド 村上ラヂオ2 下载链接1](#)

著者:村上春樹

出版者:マガジンハウス

出版时间:2011-7-7

装帧:

isbn:9784838722501

1、人の悪口を具体的に書かない 2、言い訳や自慢をなるべく書かない

3、時事的な話題は避ける。これが村上春樹さんがエッセイを書く時に自ら課したルールだそうです。そんな法則に則って書かれた、どうでもいいようだけど、やっぱりどうにも読み過ごすことが出来ない、心に沁みる興味津々のエピソード。究極のジョギング・コース、オキーフのパイナップル、ギリシアの幽霊、あざらしのくちづけ、、、うーん、なるほど。いやあ、ほんとに。マッサージのように、心のこりをときほぐしてくれるハートウォーミングな語り口。それに彩りを添えてくれるのは、大橋さんの美しい銅版画。10年ぶりに帰ってきた、アンアン連載の伝説のエッセイ『おおきなかぶ、むずかしいアボカド 村上ラヂオ2』。村上さん曰く「“日本でいちばんおいしいウーロン茶”を目指して書いた」エッセイ。肩の力を抜いて、気楽にご賞味ください。

作者介绍:

村上春樹／1949年1月12日生まれ。

小説家、早稲田大学卒業後ジャズ喫茶の経営を経て、1979年『風の歌を聴け』で群像新人文学賞を受賞しデビュー。

1987年発表の『ノルウェイの森』は上下430万部を売るベストセラーになる。その他の主な作品に『羊をめぐる冒険』『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』『ねじまき鳥クロニクル』『海辺のカフカ』『1Q84』など。日本国外でも人気が高くフランツ・カフカ賞を受賞し、以後ノーベル文学賞の有力候補と見なされている。デビュー以来翻訳の活動もしており、フィッツジェラルドの諸作品やレイモンド・カーヴァー全集のほか、チャンドラーなど多くの訳書がある。

大橋歩／イラストレーター。1940年、三重県生まれ。多摩美術大学卒業。'64年、「平凡パンチ」の表紙イラストでデビュー。その後、雑誌や単行本、広告など、多様なジャンルで活躍。'02年、企画編集・取材・撮影をすべて自身で行う雑誌『アルネ』を創刊。

目録: 前書き 村上春樹 2

野菜の気持ち	10
ハンバーガー	14
ローマ市に感謝しなくては	18
パーティが苦手	22
体型について	26
エッセイは難しい	30
医師なき国境団	34
ホテルの金魚	38
アンガー・マネイジメント	42
シーザーズ・サラダ	46
いわゆるミート・グッドバイ	50
オリンピックはつまらない	54
右か左か	58
究極のジョギングコース	62
夢を見る必要がない	66
手紙が書けない	70
オフィス・アワー	74
無考えなこびと	78
やあ暗闇、僕の旧友	82
三十歳をすぎたやつら	86
オキーフのパイナップル	90
まるで豹のように	94
もうやめちまおうか	98

悪魔と青く深い海のあいだで 1 0 2
タクシーの屋根とか 1 0 6
ちょうどいい 1 1 0
新聞ってなに? 1 1 4
コミュニケーションって必要なんだ 1 1 8
月夜のキツネ 1 2 2
太宰治は好きですか? 1 2 6
他人のセックスを笑えない 1 3 0
本が好きだった 1 3 4
携帯電話とか、栓抜きとか 1 3 8
キャラメル・マキアートのトール 1 4 2
おいしいカクテルの作り方 1 4 6
あざらしのくちづけ 1 5 0
うなぎ屋の猫 1 5 4
ガラスの家に住む人は 1 5 8
ギリシャの幽霊 1 6 2
お一人様の牡蠣フライ 1 6 6
自由に孤独で、実用的ではない 1 7 0
おおきなかぶ 1 7 4
こっちのドアから入ってきて 1 7 8
アボカドはむずかしい 1 8 2
スーツを着なくちゃな 1 8 6
並外れた頭脳 1 9 0
『スキタイ組曲』を知っていますか? 1 9 4
決闘とサクランボ 1 9 8
カラスに挑む子猫 2 0 2
男性作家と女性作家 2 0 6
ジューン・ムーン・ソング 2 1 0
ベネチアの清泉今日子 2 1 4
あとがき挿絵をさせてもらって 大橋歩 2 2 0
．．．．． (收起)

[おおきなかぶ、むずかしいアボカド 村上ラヂオ2_ 下载链接1](#)

标签

村上春树

日本

日文原版书

随笔

村上春樹

村上

日本文学

散文

评论

大桥的小画儿很好看～

刚刚在日本出版豆瓣上就有了这个条目！真佩服国内村上迷们的敬业程度！

Muir给带的。很欢乐。

这样的碎碎念真的可以一直看下去呀

有时候，作家的碎碎念是挺有趣的

插画好有趣

最近每天出门前5分钟，随手翻到哪篇就读哪篇，短小精悍，倒也别有一番趣味。

去年读完的。他真的有个有趣的灵魂啊。

難しいアボカド ヽ(@￣ー￣@)ノ

そのくだらなさが好きです。このおじさんと気が合いそう。

[おおきなかぶ、むずかしいアボカド 村上ラヂオ2_ダウンロード1](#)

书评

好吧，会点开这篇文章的人，我知道你们都好懂村上，都知道他爱爵士乐，威士忌，旅行，猫咪，马拉松……总而言之，他的爱好进可高冷，退可卖萌，是全世界小资文艺青年的一柄标杆。
如果你觉得“小资”啊“文艺青年”啊这些词侮辱了村上，对不起，请让我换一个“感动中国”版—...

村上的小说和随笔是截然不同的风格，小说中的村上 is 潇洒纵横的小说家，藏在文字背后，带着冷峻而疏离的眼光注视着你。那么随笔中的村上就是一个可亲可感的邻家大叔，有几分可爱，还带着一点点坏。
这本《大萝卜和难挑的鳄梨》是村上最新的随笔集，由他为《an・an》杂志撰写...

村上春树出了一本新书，叫做《大萝卜和难挑的鳄梨》。大萝卜我吃过，和排骨一起煮汤，味道不错，可是鳄梨是什么玩意？大萝卜和鳄梨又有什么关系？莫非可以一起煮了吃？真是百思不得其解。要了解其中奥秘，只得翻开书。
原来是本随笔集。村上自写完《1Q84》后，准备写点随笔，...

村上春树的散文和小说，是完全不同的两种文字。他的小说，多是难懂的，例如《1Q84》，那么多意象，多读几遍都不一定能看明白。而他的散文，却多是有趣的，例如这本《大萝卜和难挑的鳄梨》，单是看书名，就够挑起人的阅读兴趣了——大萝卜和鳄梨都能写散文，哥看完也是醉了。“...

清淡的村上春树《大萝卜和难挑的鳄梨》

村上春树生于1949年，现在已经六十多岁了，在中国粉丝众多，听这名字就很小资，可是我却没读过他最有名的《挪威森林》，只看过前几年风靡一时的《1Q84》三部曲。这本书是村上春树的散文，小说家的散文往往没有散文家的精彩，不...

《村上收音机》系列是村上春树在少女杂志《anan》上连载随笔。为什么村上会在少女杂志上写连载随笔呢？这是让人完全摸不着头脑的事实。大概是村上暗恋杂志社的某位编辑吧——说不定会有这样的传言。《村上收音机》是2001年出版，收录了2000年—2001年的50篇随笔。十年之后，村...

文/夏丽柠

村上春树说：“我本行是写小说，基本认为写随笔就好比是‘啤酒公司生产的乌龙茶’”。

《大萝卜和难挑的鳄梨》是村上最新的随笔集。他自黑地说，这是可以批量生产的乌龙茶基地。

村上春树这个人，就像他的作品一样，不太好说。有人是村上的死忠粉，有人对他却危言...

在国庆假期渐入佳境的时候，开始读这本书，读到“大酒店里的金鱼”，按了暂停，放下书，想想自己也住过不少酒店或者旅馆，哪里有过这样的深刻印象呢？那年去威海，租的是个人的海景房，房东来接，送了一袋新鲜的无花果，那是第一次见到新鲜的无花果，为威海人民的...

从前我养的猫喜欢吃品川卷的海苔。因此我只能一直吃没有海苔的品川卷。

上次晃到奄美大岛，有空一直在海边捡贝壳。不会腻哟。1

在写小说时，小说家脑子里需要有很多抽屉。有小小的插曲、微细的知识、些许的记忆、个人的世界观（之类的东西）。。。。写着小说时这种材料可以...

最近无意中在超市（。。。）看到村上春树新的随笔集《大萝卜和难挑的鳄梨》（所以才放在超市卖？），还是忍不住马上买下来。其实就是那种简短随性的小文章，完全没

有主题，充斥着各种天马行空的怪念头和无聊琐碎的日常点滴。可是村上实在是我读过的能把无聊琐碎的事情写得最有...

喜欢“村上写的散文”，或者喜欢“写散文的村上”，这是两回事。我的答案是：我喜欢写散文的村上。至于为什么，我原本有一段话可以表述。可命中注定，要下笔之前，看到了莫言的《人一上网就变得厚颜无耻》，立时觉得此文之外，已经无需赘言。也算取个巧，将莫言的一干观...

我本来打算以“好色的村上春树”作为这篇书评的名字的，还颇为自得于能想出这么个诱人的题目，但是盯着它想了好久，觉得《大萝卜和难挑的鳄梨》里的村上好色不假，但不仅好色，还好酒、好美食、好慢跑、好音乐以及好谈好色，光说好色太单薄，而且更关键的是，村上的好却好得“...

《大萝卜和难挑的鳄梨》书里有一篇文章叫《大杯焦糖玛奇朵》。村上说他在美国檀香山的星巴克里排队买咖啡时，看见排在他前面的日本女子用磕磕巴巴的英文点一杯大杯冰水的焦糖玛奇朵，也许由于紧张没有顾及到星巴克的柜台女孩一直用流利的日语回应她，就好像是先输入程序那样始...

完全不是村上大叔的粉丝的我来评判这本书好坏是否合乎口味感觉不太合适。大叔在书里面把散文比作乌龙茶我倒觉得非常恰当，相对于散文随笔来说，例如像小说卖得可能更多时情节，不管风格是否对胃口如果情节够跌宕够离奇一样可以引人入胜；然而散文随笔却相对来说对受众的针对性...

这本书有个奇特的名字，只是因为书群中多看了它一眼，就禁不住抽出来看了第二眼。接着就被封底的图文吸引，因为这段日子我也正被挑鳄梨这件事困扰，鳄梨由绿转黑、由硬变软，却不是每次切开都能迎来它最好的时候，总有那么几次遇到些外表还坚硬内里腐烂的，更别提核大核小的...

没想到我开始喜欢村上春树，是因为一本平淡的杂文集。作为一个世界级水平的小说家，村上春树的一些爱好与特质也随着卖座的作品为大众熟知：勤勤恳恳的四点钟起床选手，热爱马拉松与爵士乐，还是一个爱旅行，爱动物的吃货暖男。他自己下厨烹饪美食，一人进食时，也要放着音乐...

说起上回读村上叔的书也是好几年前了。真是遗憾，村上叔这么多产的小说家，我也只读过两本：一本是高中矫情的时候读的《挪威的森林》，那时喜欢得不得了；另一本是差不多时间读的《海边的卡夫卡》，写得太怪异没读懂。之后便一直没有读过村上叔的小说，也一直提不上兴趣...

[おおきなくぶ、むずかしいアボカド 村上ラヂオ2 下载链接1](#)